

GPT-6 Astra（OpenAI、2026 年 9 月 3 日発表）の評価・評判

— 発表 2 日後時点における初期反応の整理 —

作成日：2026 年 9 月 5 日

Claude Fable 5.1

はじめに（情報鮮度と凡例）

本文書は、OpenAI が 2026 年 9 月 3 日（米国時間）に発表した大規模言語モデル「GPT-6 Astra」について、発表から 2 日後（2026 年 9 月 5 日）時点で入手できた評価・評判を整理したものである。独立検証は Artificial Analysis と ARC Prize の 2 機関に事実上限られ、LMArena、SWE-bench Verified、METR 等の広範な第三者スコアは未公表である。したがって本文書に記す数値・評価は初期反応段階のものであり、今後変動しうる。

本文中の記述は、次の凡例により情報の確度を区別する。

- ・ **【一次】** OpenAI 公式ブログ・システムカード等の一次ソースで確認した事実
- ・ **【二次】** 報道・第三者機関の測定・解説記事に基づく情報
- ・ **【分析】** 上記を踏まえた調査者の解釈・推測

引用は本文中に上付き番号で示し、文末の参考文献に詳細を記す。本調査において URL を直接確認できなかった一次情報は、参考文献中で「URL 未検証」と明記した。

1. 要旨

- ・ **前提は事実である。** OpenAI は米国時間 2026 年 9 月 3 日（木）、日本時間 9 月 4 日未明に「GPT-6 Astra」を正式発表した。OpenAI 公式ブログ、システムカード、Axios 報道で確認できる^{[1][2][3]}。API モデル ID は「gpt-6-astra」、API 料金は 100 万トークン当たり入力 10 ドル／出力 50 ドルで、前世代 GPT-5.6 Sol の 2.5 倍である^{[1][7][10]}。
- ・ **評価は二極化している。** OpenAI 自社測定のベンチマーク（ARC-AGI-3 で 99.9%、FrontierMath Tier 4 で 97.6%、ExploitBench で 100%）は劇的な向上を示す^[1]。一方、独

立指標である Artificial Analysis Intelligence Index v4.1.1 では Astra は 61 で GPT-5.6 Sol (61) と同点にとどまり、首位の Claude Fable 5.1 (66) に 5 点差で及ばない^{[4][6]}。真の進歩は「汎用知能」ではなく、長時間タスク・コンピュータ操作・コーディング効率・サイバー能力に集中している。

- ・ **「AGI 時代」宣言には強い批判がある。** OpenAI 社長 Greg Brockman の「Welcome to the AGI era」発言^[3]に対し、Gary Marcus ら専門家はベンチマークのハーネス依存や対照群の欠如を指摘する^[5]。安全面では、サイバー能力が同社の Preparedness Framework で初めて「Critical」に認定された一方、モデルの推論の監視可能性が低下したことを OpenAI 自身が認めている^[2]。

2. 前提の真偽検証【一次】

- ・ **発表日時：**米国時間 2026 年 9 月 3 日（木）。日本時間では 9 月 4 日未明に当たる。OpenAI 公式ページ「GPT-6 Astra: A new generation of intelligence」および Axios（9 月 3 日付）で確認した^{[1][3]}。
- ・ **名称の確定：**「Astra」と「GPT-6」は同一モデルであり、API モデル ID は「gpt-6-astra」である。バリエーションは Astra と Astra Pro（Pro/Business/Enterprise プランで利用可）の 2 つのみで、GPT-5.6 世代の Sol/Terra/Luna のような階層構成は採られていない^{[1][9][10]}。
- ・ **提供形態：**初日はサイバー防御企業向けの「Daybreak」プログラム参加組織に限定して先行提供され、数日以内に ChatGPT Plus/Pro/Business/Enterprise、OpenAI API、Microsoft Azure（Foundry）、AWS Bedrock へ拡大するとされる。無料プランには提供されず（無料プランの既定は GPT-5.6 Luna）、エンタープライズでは管理者が有効化するまでアクセスは既定でオフである^{[1][10][12]}。
- ・ **料金・仕様：**API 標準料金は 100 万トークン当たり入力 10 ドル／出力 50 ドル、キャッシュ入力 1 ドル、Batch/Flex は半額。GPT-5.6 Sol（4 ドル／20 ドル）の 2.5 倍で、Claude Fable 5.1 と同水準である。2 倍速・2 倍価格の「Fast」モードがある。コンテキスト長は 1,050,000 トークン、最大出力は 128,000 トークン、知識カットオフは 2026 年 4 月 30 日^{[1][7][9][10]}。

- ・ **8月の「数学10問解決」発表との関係**：同一モデル系列である。OpenAIは2026年8月1日、「内部版Astra」が数学・理論計算機科学の未解決問題10問を解き、Lean 4による形式証明とともに249ページの原稿と62ページの「探索過程（discovery walkthrough）」をGitHub（Apache 2.0）で公開したと発表した。Lean 証明の未検証箇所を示す「sorry」はゼロ（全ステップ検証済み）で、10問全体の計算コストはSol API 料金換算で約2,000ドル相当とOpenAIは推定している^{[15][16][17]}。この8月発表が「Astra」の名称の初出であり、9月3日の製品版はその後継に当たる。

3. 発表内容の整理【一次：OpenAI 公式・システムカード】

3.1 主張される能力

OpenAIは、コンピュータ操作（画面を見てアプリケーションを操作）、ブラウザ操作、ソフトウェア工学、サイバーセキュリティ、科学研究、専門業務（文書・スプレッドシート・プレゼンテーション作成）を主要な適用領域として挙げ、「PCでできることは何でも代行できる」と説明している。開発者向けにはCodexに新機能（コンテキスト超過時のノート保持と過去メッセージ検索、非同期での質問）が追加された^{[1][20][21]}。

3.2 主要ベンチマーク

以下はすべてOpenAI自社測定（最大努力設定）の数値である^[1]。独立再現は本文書作成時点で限定的である（4.1 参照）。

ベンチマーク	Astra	主な比較対象	出典
ARC-AGI-3	99.9%	GPT-5.6 Sol 7.8%、Claude Opus 5 30.2%	[1][9]
FrontierMath Tier 4 (v2)	97.6%	Sol 83.0%、Claude Fable 5.1 87.8%	[1][8]
GPQA Diamond	96.0%	比較対象中最高値	[1]
Terminal-Bench 4.0	57.9%	Sol 37.3%、Fable 5.1 55.8%	[1][8]
Terminal-Bench Science 0.1	64.6%	Fable 5.1 52.6%	[1]
DeepSWE v1.1	74.1%	Sol 72.7%、Opus 5 73.7%	[1][8]
OSWorld 2.0	72.6%	Sol 65.7%（1タスク約75分→約40分に短縮）	[1]
Humanity's Last Exam（ツー	57.2%	Fable 5.1 65.0%、Opus 5 63.6%（唯一	[1][8]

ベンチマーク	Astra	主な比較対象	出典
ル使用)		Astra が下回る学術指標)	
ExploitBench	100%	Sol 78.5%	[1][2]
ExploitGym	42.4%	Sol 30.3%	[1][2]
MRCR v2 (512K-1M、長文脈)	96.3%	Sol 73.8%	[1]

3.3 安全性評価

- ・ Preparedness Framework において、サイバーセキュリティが同社初の「Critical」認定に達した。生物・化学は「High」、AI 自己改善は「High」未満とされる^{[2][18]}。
- ・ 評価中に、直近 3 か月の V8 脆弱性を用いた社内ベンチマークで 2 件のゼロデイ脆弱性を発見・悪用し、メンテナへ開示中とされる^[2]。
- ・ 学習は同社史上最大規模で、テキサス州 Stargate の 10 万基超の GPU を使用し、他のモデルが学習の監督に大きな役割を果たした初のモデルと説明されている^{[1][2]}。
- ・ 外部評価者は UK AI Security Institute (AIS)、Apollo Research、Irregular (サイバー)、SecureBio (生物) である^[2]。

4. 評価・評判の多面的調査

4.1 独立ベンチマーク【二次・第三者測定】

- ・ **Artificial Analysis Intelligence Index v4.1.1** : Astra は 61 で、GPT-5.6 Sol (61) とほぼ同点。首位は Claude Fable 5.1 の 66 (最大努力設定、同社測定の過去最高値) で、Claude Opus 5 (63)、Claude Fable 5 (62)、Grok 4.6 (61)、Meta Muse Spark 1.3 (最大設定、62) が続く。「世界最高の知能」は OpenAI 自社表上の主張であり独立コンセンサスではない、と複数媒体が指摘している^{[4][6][13]}。一方、Coding Agent Index では Codex 設定で Astra が 67 (首位は Fable 5.1 の 70) で、GPT-5.6 Sol 比でトークン使用量を約 3 分の 1 に削減し、タスク単価は Fable 5 の半分以下とされる。知識・幻覚指標 AA-Omniscience では、最大努力設定で幻覚率が 92%から 51%へ大幅に改善し、精度も 4 ポイント向上した^[4]。

- ・ **ARC Prize（独立測定）**：ARC Prize の公表によれば、Astra は同団体の標準ハーネスで ARC-AGI-3 Semi-Private を 62.7%（コスト約 2.6 万ドル）で解いた一方、OpenAI 独自の「Provider Adapter」ハーネス（推論状態を保持）では 99.9%（約 1.9 万ドル）であった。同一重み・同一問題でスコア差は 37 ポイントに達し、しかも Provider Adapter 版の方が安価である。標準の 62.7%でも Opus 5 の 30.16%の約 2 倍で記録的水準である。ARC Prize は「これらの閉じた環境は汎用人工知能を立証しない」と明言し、解決水準の 96%で人間中央値より少ない手数（平均 51.7%減）を用いたと報告している^{[6][9][22]}。
- ・ **METR**：Astra 専用の自律性評価は未公表である。2026 年 9 月 5 日時点で METR の最新の OpenAI モデル評価は GPT-5.6 Sol（6 月 26 日）であり、同機関の「50%タイムホライズン」表に Astra は掲載されていない^[24]。
- ・ **UK AISI**：Astra の「no-CoT 数学タイムホライズン」は 30.9 分（Sol 3.6 分）と約 1 桁向上し、思考連鎖（CoT）制約の順守率は 93%（Sol 48%）である。ただし長時間のサイバー軌跡の最大 80%で推論要約が欠落しており、要約ベースの監視を弱めうると報告されている^{[2][23]}。

4.2 専門家の見解【二次】

- ・ **Gary Marcus（批判派）**：「印象的で本物の前進だが、ARC-AGI 成功は AGI の証明ではない」「OpenAI は対照群すら含めなかった」「システムの仕組みが不明」「新システムは従来より監視しにくく、安全上望ましくない」と論じた。Fable 5.1 や Sol も同種の作業ができると判明した点から、「革命ではなく漸進的（incremental）」と評価している^[5]。
- ・ **Greg Brockman（OpenAI 社長）**：Astra を「世代的飛躍（generational leap）」と呼び、「いずれ汎用人工知能の到来と見なされうる」「個人的には AGI に到達したと思う」と発言した。ただし、AGI は Microsoft との契約上のトリガーではなく「使命的・精神的概念」とであると後退させ、締めくくりに「Welcome to the AGI era」と述べた（Axios、Ina Fried 記者、9 月 3 日）^[3]。
- ・ **Jakub Pachocki（OpenAI 主任科学者）**：「知能の進歩はアラインメントの進歩を保証しない」「監視への信頼を十分に回復できるまでスケーリングを保留する」と述べたと報じられている^{[1][6]}。

4.3 メディア論調【二次】

- ・ **英語圏**：Axios、Fortune、NBC、CNBC、Fox Business は「世代的飛躍」「AGI era」を見出しに掲げた^[3]。The New Stack、Vellum、Emergent は「専門タスクでは大幅向上だが、コーディングで明確なリードはなく、価格プレミアムに見合うかは不明」と冷静な論調である^{[6][8]}。Forbes（Ron Schmelzer）は、公式ページ公開前に報道が先行し一時削除された「奇妙なフライング公開」を指摘した^[26]。
- ・ **日本語圏**：ITmedia、窓の杜（Impress）、gihyo.jp、ギズモード・ジャパン、ビジネス+IT が発表当日から翌日にかけて報道した。ITmedia はサイバー能力の「Critical」認定を軸に、ギズモードは「AGI 時代にはキーボードを叩かない」という発表動画の世界観を紹介している^[27]。note/Qiita の技術者は「答える AI から仕事を終わらせる AI へ」と評価する一方^[20]、Qiita の詳細記事は「総合スコアはほとんど動かず、動いたのは長期タスク・数学・攻撃能力」と整理している^[19]。npaka 氏は公式発表内容を日本語で網羅的に要約している^[21]。

4.4 開発者・ユーザーコミュニティの反応【二次】

Hacker News や Reddit では、公式ページのフライング公開と一時削除が話題となった^[26]。実使用の印象としては「コンピュータ操作代行（computer operator）としての Astra」に注目が集まる一方、独立指標の平凡さから「漸進的」との声もある^{[13][19]}。なお、発表から 2 日しか経過しておらず、一般提供も限定的であるため、実使用レポートの蓄積は乏しい。

5. 競合比較と業界への影響【二次】

- ・ **2026 年 9 月の「フロンティア 72 時間」**：9 月 1 日に Anthropic Claude Fable 5.1/Mythos 5.1、9 月 2 日に Google Gemini 3.8 Flash および Meta Muse Spark 1.3、9 月 3 日に OpenAI Astra と、主要モデルの発表が集中した。3 社ともサイバー能力について段階的アクセスモデルを導入している^[14]。
- ・ **総合知能（Artificial Analysis Index）の序列**：Fable 5.1（66）>Opus 5（63）>Muse Spark 1.3 最大設定（62）>Astra/Muse Spark 1.3 xhigh/Sol（各 61）>Gemini 3.8 Flash（59）^{[4][14]}。

- ・ **価格帯**：Astra と Fable 5.1 が入力 10 ドル／出力 50 ドルの高価格帯に位置し、Muse Spark 1.3 は 1.25 ドル／4.25 ドル、Gemini 3.8 Flash は 0.75 ドル／3.75 ドル（2026 年末まで。以降倍額）である^{[10][14]}。
- ・ **Microsoft の動き**：Satya Nadella CEO は X で「Astra が Azure で早くも稼働」と歓迎し、Microsoft Foundry の Limited Access Program で提供している^[28]。他方、報道によれば MSFT 株は当該週に約 0.7%下落し年初来のアンダーパフォームが続いており、投資家の懸念は「Critical なサイバー安全策が商用化を遅らせないか」にあるとされる（本調査では出典 URL を特定できず、二次情報として扱う）。
- ・ **数学界との摩擦**：8 月の数学 10 問について、Scientific American が複数の数学者による研究不正（先行研究の未引用）疑惑を報じた。Yeshiva 大学の Steven Miller は球充填に関する証明が自身の 2016 年論文を流用したと主張し、「完全に組織的で、研究不正を示す」と述べた。Cambridge 大学の Francesco Fournier-Facio は非ソフィック群に関する結果が 2016 年・2019 年の先行論文を無引用で結合したものだ指摘した。OpenAI はその後「少なくとも 10 年間未解決」との表現を修正した。IMU（国際数学連合）が支持する Leiden 宣言（AI 利用の開示・査読・帰属を要求）との対立が背景にある。10 証明は Lean 検証済みだが査読は未通過である^{[15][17][25]}。

6. 分析【分析】

「AGI 時代」宣言の実態：Astra の飛躍的スコアは、ハーネス（実行環境）とベンチマーク選択に強く依存する。飽和が主張される 2 大指標（ARC-AGI-3、FrontierMath）は、それぞれ OpenAI 独自ハーネスと、OpenAI が開発資金を出し一部に排他的アクセスを持つ Epoch AI のベンチマークという「留保付き」のものである^{[5][22]}。逆に、飽和耐性を狙って設計された Artificial Analysis Intelligence Index では、Astra は前世代とほぼ同点にとどまる^[4]。これが Astra 評価の核心であり、汎用知能の世代的飛躍というより、長時間・多工程の「エージェント作業」における到達点の引き上げと捉えるのが妥当である。

真の進歩がある領域：（1）コンピュータ操作（OSWorld 2.0 で所要時間約 47%短縮）、（2）コーディング効率（同等スコアを Sol の約 3 分の 1 のトークンで達成、タスク単価は Fable 5 の半分以下）、（3）長文脈（512K-1M トークンで 96.3%）、（4）サイバー攻撃能力（ExploitBench 飽和、ゼロデイ 2 件発見）、（5）幻覚率の大幅低下、の 5 点である^{[1][2][4]}。こ

れらはエージェント運用において実利をもたらす。

安全性の両義性：Astra は「最もアラインされたモデル」を謳い、不可能タスクでの逸脱率 0% (Sol 48%) など前進を示す一方、OpenAI 自身が「Astra の記述的推論は Sol より監視しにくくなった」と認めている^[2]。能力向上と監視可能性低下の同時進行は、安全性研究者が最も懸念する組み合わせである。

7. 推奨アクション【分析】

段階 1：様子見（～9 月中旬）。無料・標準プランには未提供であり、現時点で Astra へ移行する合理性は薄い。GPT-5.6 Sol や Claude Fable 5.1 で足りる用途は据え置く。判断を変える閾値は、LMArena・SWE-bench Verified・METR の独立スコア公開、およびシステムカード全文の精査により監視可能性と生物・サイバー能力の詳細を確認できた時点である。

段階 2：限定 PoC（提供拡大後）。長時間・多工程の自律タスク（コンピュータ操作、コードベース横断、長文脈解析）がボトルネックとなっている業務に限り、Astra で小規模検証を行う。判断基準は「トークン単価」ではなく「完了タスク単価」とする。知財実務では、先行技術調査の横断、長文の特許明細書の解析、図面・CAD の再構成などが候補となるが、出力の人手検証を必須とする。

段階 3：本番投入判断。独立ベンチマークで対 Fable 5.1 の優位が自社ワークロードで確認でき、かつサイバー安全チェックによる業務中断（API 上でタスクが停止しうる）が許容範囲に収まる場合に限る。エンタープライズでは管理者が明示的に有効化するまでアクセスが既定でオフである点に留意する。

知財の視点：8 月の数学 10 問を巡る Leiden 宣言・研究不正疑惑は、AI 生成成果の帰属・先行技術・査読という知財の根幹に直結する。AI による自律的な科学研究の発明者性・進歩性・引用義務は今後の重要論点である。日本企業には「AI エージェントによる自律業務」のガバナンス（監視・承認フロー・監査ログ、サイバー機能の取扱い）の整備を推奨する。

8. 留保事項

- ・ 本文書は発表 2 日後の初期段階のまとめである。独立検証は Artificial Analysis と ARC Prize の 2 機関に限られ、広範なコンセンサスではない。

- ・ OpenAI 公表ベンチマークはすべて自社測定・最大努力設定で、独立再現はまだない。
ARC-AGI-3・FrontierMath にはハーネス依存・利益相反の懸念がある。
- ・ 「AGI」には合意された定義がなく、単一ベンチマークで決着するものではない。
Brockman 氏の宣言は解釈であり確定事実ではない。
- ・ 8月の数学成果は査読未通過であり、帰属を巡る学界の論争が継続中である。証明の「正しさ」(Lean 検証済み)と「新規性・帰属」(係争中)は区別が必要である。
- ・ METR の Astra 専用自律性評価は未公表である。UK AISI の 30.9 分は「no-CoT 数学タイムホライズン」(監視可能性の指標)であり、METR 流の「50%信頼性ソフトウェアタスクホライズン」とは異なる指標であるため混同してはならない。
- ・ 一部の二次媒体 (Yotta Labs、Cody、Kie.ai、AI Wiki 等) は AI 関連ベンダーまたはアグリゲーターであり、Artificial Analysis データの下流である場合が多い。独立の裏付けとしては割り引いて評価すべきである。
- ・ 参考文献のうち[22]~[28]は、本調査において二次報道経由で内容を確認したもので、一次情報の URL は未検証である。

9. 確認できた事実の要約と今後の注視点

確認できた事実：GPT-6 Astra は 2026 年 9 月 3 日 (米国時間) に実在の正式発表として行われた。名称・価格・提供形態・自社ベンチマークは一次ソースで確定している^{[1][2]}。独立指標では総合知能は前世代並みだが^[4]、エージェント作業・コーディング効率・サイバー能力で明確な前進がある。安全面はサイバー「Critical」認定と監視可能性低下という両義的な結果である^[2]。

今後の注視点：(1) LMArena・SWE-bench Verified・METR 等の追加独立ベンチマーク、(2) システムカード全文 (生物・サイバーの詳細な能力評価、レッドチーム結果、UK AISI/Apollo Research/Irregular/SecureBio の寄稿)、(3) 一般提供拡大時の実使用フィードバックと不具合報告、(4) 8月の数学成果の査読・帰属論争の帰趨、(5) 「Critical」サイバー能力の悪用リスクと規制対応、(6) 価格プレミアムに対する「完了タスク単価」での実質コスト評価。

参考文献

A. URL を確認した文献

- [1] OpenAI 「GPT-6 Astra: A new generation of intelligence」 OpenAI 公式ブログ、2026 年 9 月 3 日。
<https://openai.com/index/gpt-6-astra/>
- [2] OpenAI 「GPT-6 Astra System Card」 OpenAI Deployment Safety Hub、2026 年 9 月。
<https://deploymentsafety.openai.com/gpt-6-astra>
- [3] Ina Fried 「OpenAI releases new model GPT-6 Astra, says it may represent AGI」 Axios、2026 年 9 月 3 日。
<https://www.axios.com/2026/09/03/openai-astra-gpt-6-agi-brockman>
- [4] Artificial Analysis 「Benchmarking GPT-6 Astra」 2026 年 9 月。
<https://artificialanalysis.ai/articles/benchmarking-gpt-6-astra>
- [5] Gary Marcus 「Hot take on GPT-6 Astra」 Marcus on AI (Substack) 、2026 年 9 月。
<https://garymarcus.substack.com/p/hot-take-on-gpt-6-astra>
- [6] The New Stack 「OpenAI launches GPT-6 Astra and says welcome to the "AGI era"」 2026 年 9 月。
<https://thenewstack.io/openai-gpt6-astra-benchmarks/>
- [7] DataCamp 「GPT-6 Astra: Features, Benchmarks, and Pricing」 2026 年 9 月。
<https://www.datacamp.com/blog/gpt-6-astra>
- [8] Vellum 「GPT-6 Astra Benchmarks Explained」 2026 年 9 月。
<https://www.vellum.ai/blog/gpt-6-astra-benchmarks-explained>
- [9] AI Wiki 「GPT-6 Astra」 2026 年 9 月。
https://aiwiki.ai/wiki/gpt_6_astra
- [10] Yotta Labs 「GPT-6 Astra: Release Date, Pricing, Benchmarks, and Rollout (2026)」 2026 年 9 月。
<https://www.yottalabs.ai/post/gpt-6-release-date-rumors-what-is-known-2026>
- [11] The Neuron 「GPT-6 Astra: Everything You Need to Know About OpenAI's New Model」 2026 年 9 月。
<https://www.theneuron.ai/news/gpt-6-astra-everything-you-need-to-know-about-openais-new-model/>
- [12] Cody (meetcody.ai) 「GPT-6 Astra Released: Access, Features & Latest News」 2026 年 9 月。
<https://meetcody.ai/blog/gpt-6-astra-release-date-rumors/>
- [13] Kie.ai 「GPT-6 Astra Release: Benchmarks and Analysis (Signal vs Noise)」 2026 年 9 月。
<https://kie.ai/blog/gpt-6-astra-signal-vs-noise>
- [14] Local AI Zone 「September 2026 AI Model Updates: Every Launch, Price Move, and Architecture Shift」 2026 年 9 月。
https://local-ai-zone.github.io/blog/September_2026_AI_Model_Updates.html
- [15] Quartz 「OpenAI Astra model solves 10 open math problems for \$2,000」 2026 年 8 月。
<https://qz.com/openai-astra-model-math-problems-lean-proofs-080326>

- [16] DataCamp 「OpenAI's New Model, Astra, Has Solved Ten Open Math Problems」 2026 年 8 月。
<https://www.datacamp.com/blog/open-ai-model-astra-solved-ten-open-math-problems>
- [17] Tech Insider 「OpenAI Astra Solves 10 Open Math Problems [2026]」 2026 年 8 月。 <https://tech-insider.org/openai-astra-solves-10-open-math-problems-2026/>
- [18] nolanlover0527 「OpenAI が最強モデル「GPT-6 Astra」を発表」 Qiita、2026 年 9 月。
<https://qiita.com/nolanlover0527/items/f38f36091aa35979fe61>
- [19] mguozhen 「GPT-6 Astra 登場：総合スコアはほとんど動かず、動いたのは別の場所」 Qiita、2026 年 9 月。 <https://qiita.com/mguozhen/items/314e4f6c7a9843265712>
- [20] 久我レイジ 「GPT-6 Astra って何がすごい？ ChatGPT が「答える AI」から「仕事を終わらせる AI」へ」 note、2026 年 9 月。 https://note.com/kuga_rage/n/n7527704e7e50
- [21] npaka 「GPT-6 Astra の概要」 note、2026 年 9 月。 <https://note.com/npaka/n/n299d213c6716>

B. 二次報道経由で内容を確認した一次情報（URL 未検証）

- [22] ARC Prize 「GPT-6 Astra の ARC-AGI-3 検証結果」（2026 年 9 月）。本調査では[6][9]等の二次報道経由で内容を確認。URL 未検証。
- [23] UK AI Security Institute 「GPT-6 Astra 事前展開評価」（2026 年 9 月、システムカード[2]所収の要約に基づく）。URL 未検証。
- [24] METR 「GPT-5.6 Sol 自律性評価」（2026 年 6 月 26 日）およびタイムホライズン一覧。URL 未検証。
- [25] Scientific American 「OpenAI Astra の数学成果に対する研究不正疑惑」（2026 年 8 月、Steven Miller 氏・Francesco Fournier-Facio 氏の発言を含む）。URL 未検証。
- [26] Ron Schmelzer 「GPT-6 Astra のフライング公開に関する記事」 Forbes（2026 年 9 月）。URL 未検証。
- [27] ITmedia、窓の杜（Impress Watch）、gihyo.jp、ギズモード・ジャパン、ビジネス+IT 「GPT-6 Astra 発表報道」（2026 年 9 月 4～5 日）。各 URL 未検証。
- [28] Satya Nadella（Microsoft CEO）X 投稿「Astra の Azure 提供開始」（2026 年 9 月 3 日）。URL 未検証。